

シマ桑シンポジウム2014 in 沖永良部島



9月7日、あしびの郷・ちなにて開催。

本町では、本土より栄養価が高く優れた健康機能性を持つシマ桑を活用し、6次産業化に着手。平成24年度には、「えらぶ特産品加工場」(奄美群島振興開発事業を活用)を建設しました。



知名町長 平安 正盛

これを記念し、広く一般の方々にもシマ桑の魅力を知っていただくことを目的に「シマ桑シンポジウム2014 in 沖永良部島」を開催。有識者による基調講演と、シマ桑を活用したまちおこしについて、パネルディスカッションを行いました。

はじめに、平安正盛町長が「本町農業の持続的発展を図るとともに、6次産業化を見据えた今後の農業のあり方を模索してきましたが、今後の農業は、このシマ桑だと確信しています。本日お越しいただいた皆様には、ぜひ、この機会にシマ桑の魅力を知っていただき、シマ桑で健康になると同時に島の新たな産業として成長できるようお力添えをお願いします。」と開会のあいさつを述べました。



玉川大学農学部 八並 一寿 教授

基調講演では、平成19年から来島し、シマ桑の調査研究行っている玉川大学農学部の八並教授が、「沖永良部島でのシマ桑調査結果と今後期待されるシマ桑の有効活用について」と題して講演。桑の葉の歴史、効能、加工法、シマ桑調査の結果等を紹介し、最後に、「沖永良部産のシマ桑

は、健康食品素材・生活習慣病予防素材として、日々の摂取が推奨でき、本土に向けた特産品としても有用な素材です。『健康になる木』『お金につながる木』であり非常に『おいしい木』であることをぜひ覚えてもらいたい。」と結びました。



昭和薬科大学薬学部大学院 小野寺 敏 准教授

続いて、昭和薬科大学薬学部大学院の小野寺准教授が「シマ桑でいきいき健康生活を!!」のテーマで講演。健康であるためには、まず食事・睡眠・適度な運動の3つが必要であることや健康の定義、「未病」(体に症状が出ていないが、病院で診察しても結果としては異常なしという状態)について紹介されました。今後の町の産業については、「桑だけでなく、蚕や絹も利用すれば、さらに産業の活性化や雇用が進むの

では」と提言されました。パネルディスカッションでは、「沖永良部島のシマ桑産業の発展と健康増進にむけて」をテーマに、コーディネーターを平安町長が、パネラーを、八並教授、小野寺准教授に加え、25年1月に設立したかごしま桑振興会の諸木逸郎会長と、企業等の業務コンサルティンクを行う株式会社ドゥーイットの代表取締役で、沖永良部2世である本部映利香社長の4名が務めました。

知名町の大きな問題である人口減少や医療費増大等を解決するための手段の一つが桑であることを踏まえ、今後の展開やどのようか、様々な提言がありました。「27年からは、食品の機能表示ができるようになりますが、それに伴い、相当需要が増大することが予想されるので、大量供給に向けて、安心安全な土地は、桑の栽培ができるよう有効活用していただきたい。」と八並教授。